

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

吉田 和也  
Kazuya YOSHIDA  
機械システム工学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイで企業見学、ハノイ工業大学の学生とPBLを行いました。具体的な日程・内容は下記の表1に示します。

今回のプログラムの目的は海外経験をもち、考え方や、ものの見方（視野）を広げることでした。私自身の学習目標は、グローバル社会において産業がどのように深淵しているかを知る、グローバルに進展する社会・産業に関わっている日本企業、日本技術者が果たしている役割を理解する、言語や文化が異なる様々な国や地域の人々とコミュニケーションをとる、異文化に対する理解を深めることにより、海外に対する意識を高める、の4つでした。未知の世界に飛び込める行動力や、最後までやり抜くタフネスさ、自分の頭で考え課題を解決する能力を向上させたいと考えました。

表1 日程

8月29日	出国、オリエンテーション
8月30日	企業見学
8月31日	PBL 開始
9月1日	PBL 発表
9月2日	ベトナム観光
9月3日	ハノイ出発、オリエンテーション
9月4日	南洋理工大学見学
9月5日	ビジネスパーソンとの交流
9月6日	自由時間、シンガポール出国
9月7日	日本着

### 2. 研修内容

2日目は日本の企業の Takagi とベトナムの企業の Rikkei Soft と NTQ を訪問しました。Rikkei Soft はスマートフォンアプリの開発、ゲームの開発やウェブシステムの開発、金融・業務系システム開発などを開発しています。立ち上げたのが日本で学んだベトナム人であり、また、日本との取引が多いため、ほとんどのベトナム人社員の方が日本語で会話をすることができました。ここで感じたのはベトナム人の勤勉さです。ベトナム人は自分のためになると考えたならそれを一生懸命やり、身に着ける勤勉さがあります。今の日本では少なくなっていると私は考えているので、見習うべきところだと考えました。NTQ はモバイルアプリの開発、業務系アプリなどの開発をしています。ここでは実際に職場を見ることができる時間がありました。服装は私服で退社時間も基本17時と圧迫感を感じない職場でした。Rikkei Soft と NTQ は共にベトナムの会社ですが日本に対する考え方や、これからのビジネスモデルには違いがあると感じました。

Takagi ベトナムは日系企業であり、主に家庭用浄水器や、散水用品など、水にかかわる製品の製造を行っています。従業員数は257名で平均年齢は27.5歳、日本人がこのうち7名で、ベトナム人従業員の83%が女性です。ベトナムの女性はとてもまじめであるため、工場では女性の方が多く働いておられます。今は日本人が7名ですが、将来的には2人まで減らし、ベトナム人を多く管理職にしてベトナム人だけで運営できるような会社にすることが最終的な目標だそうです。工場見学をさせて頂きましたが、Takagi はシャワーの出口を金型によって作成しており、さらに、プラスチック製品を作るための金型も自作していました。そして、組み立ては多くが手作業で行われていて、包装したものをいくつか開けて品質のチェックをするなどミスの少なくするための工夫をたくさんしていました。

現在、ベトナムはすごい勢いで成長しているた

め、人件費もどんどん上がり、実際年に10%の上昇率となっています。今は手作業で作っても利益を上げることができていますが、これから人件費が上がっていけば利益を上げられなくなっていきます。そのときは、工場をもっと人件費が安くて済むところに移転するのか疑問に思い、工場長に質問すると、作業員はそのころにはもっと作るのが速くなっているのです。人件費が高くなっても、そのぶん数を多く作ることで一つ当たりの人件費を少なくできるというお答えをいただきました。見学後の質問タイムでも、ベトナムの人件費が高くなったころにはベトナムの市場も成熟し市場にできるので、そこで利益を上げればよい、とおっしゃっていました。同じ会社でもそれぞれ違うことを考えていて、これが会社としての考え方の多様性につながるのかなと感じました。Takagiでは実際に工場を見学することができ、話を聞くだけではわからないようなこともたくさんありとても勉強になりました。

3,4日目は、ベトナムの学生とPBLを行いました。意見交換を英語でするのは、相手に言いたいことがなかなか伝わらず大変でしたが、伝わった時の達成感が気持ちよかったです。ベトナムの学生はとても積極的に課題に取り組んでいて作業の時間が足りず、プレゼンの準備が十分でない状況でも、ベトナムの学生はあきらめずにしっかりとプレゼンに取り組んでいる姿を見て、自分に足りないのはこの積極性だと感じました。

6日目はシンガポールに移動して、そのまま自由行動。7日目は南洋理工大学を見学しました。世界ランキング11位と高い評価を受けている大学であり、研究室の設備も目を見張るものでした。世界の

レベルを実際に見ることができ、もっと日頃からただ学習するのではなく、考えながら学習しなければならないと実感しました。8日目には海外でお仕事をされていた築野さんの講演や、日本人のビジネスパーソンの方々との交流、加藤さんの交流がありました。「最初から海外に就職するより日本で一度働いてからの方がいい」など将来働くことについてたくさん話を聞くことができるとても有意義な時間を過ごすことができました。

### 3. おわりに

今回、ASEANグローバルプログラムを受講することができて本当に良かったです。最初は初めて行く海外に対する不安がありました。しかし、実際に行ってみるとそんな不安感より初めての体験による刺激や、発見が楽しく、途中で体調を崩してしまうというハプニングもありましたが、とても充実したプログラムでした。今回のプログラムを通して、初めて日本人以外とディスカッションをして、自分に足りていないものや、自分がこれからどんな人間になりたいかを知ることができ、とても有意義なプログラムになりました。この経験を日々の生活、そして、来年のインターンシップ、再来年の就職活動、これからの人生へとつなげていけるように今回のプログラムで得たものをしっかりと自分の一部にしていきたいと思います。

最後に、このプログラムに関わってくださった学校関係者や、企業の皆様に感謝し、このような経験を得る機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。